

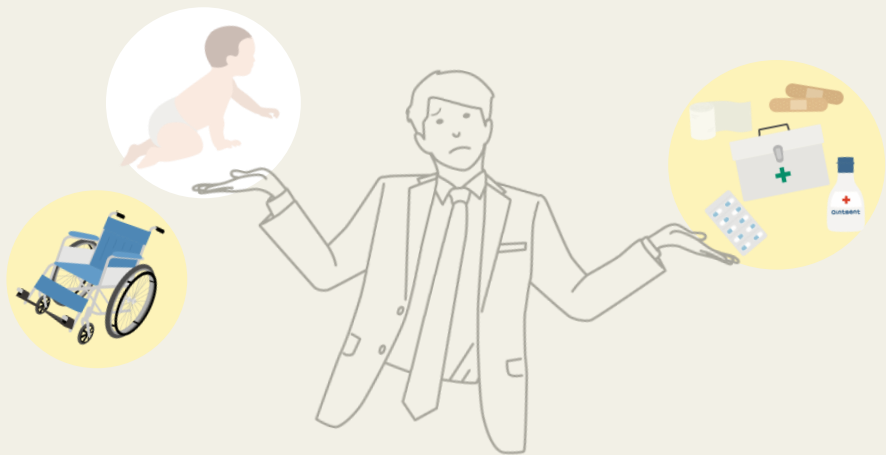


「とびラボ」 名称の由来と想い

- ★ 5号館の建物、職種や人事の壁、実践者・当事者との距離…色々な縛りを超えて「飛び出し」、企画する“Laboratory”を始めたいという想いから名付けました。
- ★ “R”は、*Real, Reform, Rhythm, Ring*など、エネルギーを感じる言葉に使われています。ぜひ、皆さんイチ押しの“R”で始まる言葉を持って、「とびラボ」に参加してください！
- ★ かな、英字、カナの併用は、とびラボが推進する職種などの“ごちゃ混ぜ”による相乗効果を表しています。

とびだす"R"ラボ(とびラボ)は、新しい提案型の研修・広報制度です

「とびラボ」ってなに？



ざっくり言うと

「今の職務の枠を超えて、職員が自分の関心や意欲に沿ってチャレンジすることを組織として応援する仕組み」です。

- ★ 職員自らが提案する企画を選定、人事課・広報室の公式の職員研修・広報企画として位置づけます。
- ★ 実施企画は、広報誌「月刊厚生労働」上での公表が前提（実施の様子・職員の氏名・顔写真）！職務に大きな支障がない限り業務時間内に参加でき、費用の一部もサポートします。
- ★ 参加は、①企画提案、②企画参加、③企画委員会に参加、の3つの方法があります。

「とびラボ」でできること！



- ★ **企画例** たとえばこんなことができます。
 - 今の職務以外の政策分野※¹で実施する、**現場訪問や、支援者や当事者との意見交換**
 - 今の職務を含む厚生労働行政の政策分野に関して開催する**勉強会**※²

これ以外でも、省内でのイベント（例：農福連携）の開催など、厚生労働省の広報につながる取組であれば、幅広く対象になります。

「とびラボ」を始めるワケ

- ★ 今の職務を超えて学んだり仲間と一緒に取り組んだりすることは、**現在や将来の職務にもプラスになると**考えています。
- ★ でも、「あそこに行きたい」「あの人の話を聴きたい」「〇〇に取り組みたい」・・・そんな関心や意欲があっても、今の職務と違う分野だったり、一緒に取り組む仲間がいなかったりして、**諦めたことはありませんか？**
- ★ **せっかくの関心や意欲を活かしてほしい** —— これが、「とびラボ」に込めた思いです。

※1 広く厚生労働行政に関連していれば問題ありません。 ※2 すべての職員に幅広く参加を募って開催するものに限りません。

参加方法は3パターン

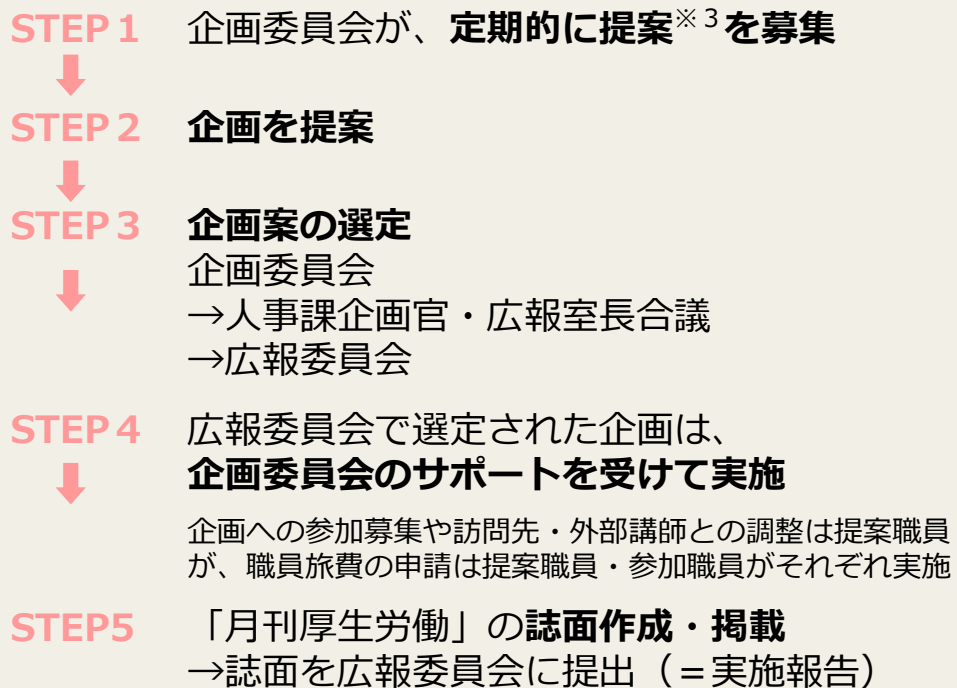
提案や応募に際して、事前に所属部局や職種ごとの上司の了解は必要ありません。企画参加時には実施日時等の報告は必要です。

参加方法	活動内容	参加要件
とびラボ 企画委員会 メンバーになる	職員の提案を企画案として選定・実施をサポート <詳細は↓↓> 人事課・広報室に併任発令されます。	平成11年(合同採用初年度)以降に採用の職員であれば、職種や年次は問いません。 人数は10-15名を想定しています。
自ら企画を提案する	企画が選定されたら企画委員会のサポートを受けて実施	年次・職種等が異なる複数の職員で実施するのであれば、どなたでも可能です。
選定された企画に参加する	興味がある企画の参加募集があったら手を上げて参加	

とびラボ企画委員会の主な役割

- ★ 企画案の選定基準の作成・運用
- ★ 職員からの提案企画の募集・選定、職員からの相談受付・企画化の支援
- ★ 企画の実施に当たって提案者への必要な助言等
- ★ 企画実施時の現場訪問等への同行、勉強会への出席

提案～実施の流れ



諸経費負担

提案・参加職員は、企画の実施に必要な費用について、支援を受けることができます。

費用項目	負担
職員旅費※ ⁴	提案職員と参加職員の所属部局
講師謝金※ ⁵ 交通費	人事課

※³ 複数の採用区分の職員を含み、かつ所属部局・年次の異なる複数の職員で構成される職員有志からの提案に限ります。

※⁴ 交通費を伴うものに限り。 ※⁵ 外部講師を招いて行うものに限り。